

アットウシ<樹皮繊維製衣服>

COI OI

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『アイヌ もっと知りたい!暮らし
や歴史』P14~16
『アコロコタン』
『太陽の地図帖 アイヌの世界
を旅する』P27・72



アットウシ

アットウシは、おもにオヒョウ（ニレ科）の木の^{ないひ}内皮から糸を作り、織った布
でできています。本州以南でも、シナノキ（科・^{しな}級・^{しな}楮^{しな}の木）やフジ（藤）
などの樹皮から作る布があります。振り袖が多く、^{もじ}衿（^{おくみ}前身頃の左右を^{まえみごろ}合わせる
ために足した部分）がありません。また、作業をする時は^よ帯で^{はだぎ}しめます。
。女性は、モウルと呼ばれる肌着を着てから羽織りました。

【佐々木先生からのひとこと】

アイヌ語には日本語にない発音があります。アットウシの「ツ」や「ウ」の
ように小さく表記し、読むときは軽く発音します。

【齋藤先生からのひとこと】

アットウシは水に^ぬ濡れても体に張りつかないので、本州出身の船乗りや漁師
にも好まれ、江戸時代後半から明治初期にかけて、北海道からたくさん移出
されました。アイヌ語の発音については、北海道新聞電子版の「アイヌ語小
文字発音講座」で音を聞くことができます。たとえば小さく表記する「シ」
は以下を参照してください。

<https://www.hokkaido-np.co.jp/movies/detail/5536219035001>



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

ルウンペ<木綿衣>

C0102

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

- 『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P14～16
- 『アコロコタン』
- 『季刊民族学 No.160
』P44～51



ルウンペ

木綿の衣服は、刺しゅうや文様に使う布の色や形などによって、それぞれ呼び方が異なります（地方によって異なります）。製作者の小美浪さんの地域（白老町）では、この服はルウンペと呼びます。さまざまな色のテープ状の布で文様をつくり、さらにその上から刺しゅうをしたものです。

【齋藤先生からのひとこと】

文様の角や、うずまきのようにになっている部分を、どのように縫っているのか、よく見てください。



※C0102 どちらか1点が入っています

カパラミプ<木綿衣>

C0102

アイヌ文化にであう

北海道/日本



参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい!
くらしや歴史』P14~16
『アコロコタン』
『季刊民族学 No.160
』P44~51

カパラミプ

木綿の衣服は、刺しゅうや文様に使う布の色や形などによって、それぞれ呼び方があります（地方によってこと異なります）。切り込みを入れた大きな白い布を縫いつけて、文様にした服は、日高地方でカパラミプと呼ばれ、いまでは他の地域でも、そう呼ばれるようになってきています。

制作者の竹内明美さんが、あわせてモウル（肌着）も作ってくれました。



モウル<肌着>

【齋藤先生からのひとこと】

文様になっている白い布は、どこからどこまでが1枚なのか、よく見てみましょう。



マタンプリシまたはマタンプリシ<はちまき>

CO103

アイヌ文化にであう

北海道/日本



マタンプリシ または マタンプリシ

古くは男性が用いたもので、山へ狩りに行くなど作業をするときに使うものと、^{せいそう}盛装のときに着けるものがありました。現代では、女性も^{そうしょく}装飾品として着けるようになりました。はちまきの額の部分には、文様が^し刺しゅうされています。

【佐々木先生からのひとこと】

結び方は、地方によっても違いますが、頭の後ろで結ぶことが一般的です。

【齋藤先生からのひとこと】

額の部分の幅が^{はば}ひろく、端に^{はし}いくほど細くなっているものや、一定の幅のものなど、形もさまざまです。



※C0104 どちらか1点が入っています

木綿のマエタレ^{まえか}<前掛け>

C0104

アイヌ文化にであう

北海道/日本



マエタレ

マエタレはマンタリなどとも呼ばれ、いずれも日本語の「^{まえた}前垂れ」が変化したものです。女性は家事や作業をするときなどに身につけ、衣服を汚さないためばかりでなく、前がはだけないようにしていました。

【佐々木先生からのひとこと】

今のエプロンと同じようなものですね。

※C0104 どちらか1点が入っています

アットウシ^{じゅひせんい}<樹皮繊維製布>のマエタレ^{まえか}<前掛け>

C0104

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料 :
『太陽の地図帖 アイヌ
の世界を旅する』P27



アットウシのマエタレ

アットウシは、オヒョウ(ニレ科)などの樹皮の繊維から作った糸で織った布です。マエタレはマンタリなどとも呼ばれ、いずれも日本語の「前垂れ」が変化したものです。女性^{まえか}は家事や作業をするときなどに身につけ、衣服を汚さないためばかりでなく、前がはだけないようにしていました。

【齋藤先生からのひとこと】

このマエタレは、北海道平取町二風谷の関根真紀さんが織り、刺しゅうをしたものです。

※C0105 どちらか1点が入っています

サラニプ^{あ ぶくろ}<編み袋>

C0105

アイヌ文化にであう

北海道/日本



参照資料：

『アイヌ もっと知りたい
!くらしや歴史』P20

サラニプ

山菜や貝などを採って持ち帰ったり、ヒエやアワ、キビなどを収穫するときなど、ものしゅうかくを入れて運ぶための袋です。食べものの貯蔵用にも使われました。シナノキの樹皮じゅひなどを編んで作ります。

【齋藤先生からのひとこと】

入れるものによって大きさや形はさまざまです。作者の竹内明美さんが、せお背負いやすいようにタラ（荷縄）になわを付けてくれました。



サラニプ^{あ ぶくる} ＜編み袋＞

C0105

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『アイヌ もっと知りたい
!くらしや歴史』P20



サラニプ

山菜や貝などを採って持ち帰ったり、ヒエやアワ、キビなどを収穫するときなど、ものしゅうかくを入れて運ぶための袋です。食べものの貯蔵用にも使われました。シナノキの樹皮ちようようなどを編んで作ります。じゅひ

【齋藤先生からのひとこと】

入れるものによって大きさや形はさまざまです。



イタ^{ぼん}_{<盆>}

C0106

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの
世界を旅する』P26



イタ

食器をのせて使うだけではなく、食物を直接盛^もることもありました。自分たちで使うのはもちろん、江戸時代から献上品や交易品として和人向けに作られ、現在は工芸品^{はんばい}としても販売されています。

【佐々木先生からのひとこと】

かつては小刀一本でつくるのが一般的^{いっばんてき}でした。

【齋藤先生からのひとこと】

伝統的な文様^{もんよう}のなかに、作者の貝澤守さん独自のデザインが加えられています。汚れ^{よご}が付きにくいように、オイルを塗^ぬって仕上げられています。

イタ^{ぼん} 〈盆〉

C0106

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『太陽の地図帖 アイヌの
世界を旅する』P26



イタ

食器をのせて使うだけではなく、食物を直接盛^もることもありました。自分たちで使うのはもちろん、江戸時代から献上品や交易品として和人向けに作られ、現在は工芸品としても販売^{はんばい}されています。

【佐々木先生からのひとこと】

かつては小刀一本でつくるのが一般的^{いっばんてき}でした。

【齋藤先生からのひとこと】

この盆は、まるで柔らかな布^{やわ}のように作られています。作者の貝澤徹さんオリジナルの表現です。

マキリ<小刀>

C0107

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料 :

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P92
『アイヌ もっと知りたい！くらしや歴史』P21
『季刊民族学No.107』P86～87



マキリ

小刀は、動物や魚をさばくときや裁縫、木彫品を作るときなどさまざまな場面で使われ、男女ともにいつも腰に携帯していました。マキリは刀身と鞘、柄などでできています。鞘と柄には細かい彫刻が施されたものが多くあります。鞘は1本の木をくりぬ抜いたり、2枚に割った木を貼り合わせたりして作ります。貼り合わせた鞘には、桜の樹皮などを巻きつけ、補強しています。

【佐々木先生からのひとこと】

かつてアイヌの男性は、結婚を申し込む時、相手の女性に小刀を贈ったそうです。彫刻ができるということは生活で使う道具を作る技術をも身につけた証でした。

【齋藤先生からのひとこと】

本来の刀身は鋼でできていますが、危なくないように木製にしています。これまでに数多くの実用のマキリを作ってきた浦川太八さんが製作したものです。



マキリ<小刀>

C0107

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『太陽の地図帖 アイヌの世界を旅する』P92
『アイヌ もっと知りたい！くらしや歴史』P21
『季刊民族学No.107』P86～87



マキリ

小刀は、動物や魚をさばくときや裁縫、木彫品を作るときなどさまざまな場面で使われ、男女ともにいつも腰に携帯していました。このマキリ(小刀)は大正から昭和にかけてのものと推定されます。マキリは刀身と鞘、柄などでできています。鞘と柄には細かい彫刻が施されたものが多いです。鞘は1本の木をくりぬいたり、2枚に割った木を貼り合わせたりして作ります。貼り合わせた鞘には、桜の樹皮などを、巻きつけ、補強しています。

【佐々木先生からのひとこと】

かつてアイヌの男性は、結婚を申し込む時、相手の女性に小刀を贈ったそうです。彫刻ができるということは生活で使う道具を作る技術を身につけた証でした。

【齋藤先生からのひとこと】

本来の刀身は鋼でできていますが、危なくないように木製にしています。



イクパスイ ほうしゅばし <捧酒箸>

CO108

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい
!くらしや歴史』P28~29
『季刊民族学No.42』
『季刊民族学No.107』P85
『季刊民族学No.150』P78
~79
『季刊民族学No.162』P75
~82



イクパスイ

カムイや祖先いのに祈る際、お酒を捧ささげるために用いるへら状の道具で、人間の祈りいののことはおぎなを補ってくれるものと考えられています。北海道では、イクパスイよと呼ばれ、イクはしは(酒を)飲む、パスイようとは箸のことなので、アイヌ語の意味や用途から日本語名が付けられています。左手に酒を入れたわん椀を、右手でイクパスイせんたんを持って先端にお酒をつけて揺らすゆようにして捧ちいきげますが、作法には地域差があります。

【齋藤先生からのひとこと】

古い資料の表面の彫刻ちようこくは、うずまきや植物、魚の鱗うろこのような平面的な文様もんようばかりではなく、熊や船など立体的なものもあります。祈りいのを届けるための大切な道具ていねいなので、とくに丁寧あつかにやさしく扱あつかってください。



ムックリ または ムツクル<口琴>

アイヌ文化にであう

CO109

北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P35



ムックリ または ムツクル

日本語で口琴(こうきん)とよばれる楽器です。アイヌのものは竹製です。本体の真ん中には弁と呼ばれる切りこみがあり、その弁をひもで引っ張って、振動させて音をだします。口の大きさや舌の位置、息の量を変えることでいろいろな音がでます。

【佐々木先生からのひとこと】

ムックリは、海や川、風の音、動物の鳴き声などを表現したり、自分の想いを相手に伝えるときに奏かなでられました。ムックリは海外にもある楽器なので探してみよう。

【齋藤先生からのひとこと】

音を鳴らすには、コツが要ります。力まかせにひもを引っばるのではなく、手首を弾くようにはじ(スナップをきかせて)動かします。ビーンという音が出るようになったら、口元に当てて音を変えてみましょう。



カラカラ

アイヌ文化にであう

COIIO

北海道/日本



カラカラ

浦川太八氏が製作した子どもの玩具がんぐです。エゾシカの爪つめでつくられています。
赤ん坊あか ぼうをあやすときに使う、取っ手つっのついた筒状の玩具「ガラガラ」に由来しています。

【佐々木先生からのひとこと】

爪が二重になっていて、とてもいい音がでます。

カリッペカッなど〈輪刺し〉

COIII

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：
『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P45
『アコロコタン』P83～92



カリッペカッ

子どもの遊び道具で、ブドウ蔓^{ずる}を曲げて作った輪を地面の上で転がして横から棒^{ぼう}で突^ついたり、宙^{ちゆう}に投げ上げて先端^{せんたん}が二股^{ふたまた}になった棒で受けとめたりします。こうした遊^{やり}びは、槍^{えもの}で獲物を突き刺したりする練習にもなったといわれます。

【齋藤先生からのひとこと】

くしろしあかんちよう
釧路市阿寒町の秋辺日出男さんが製作しました。(公財)アイヌ民族文化財団が製作した「子どもたちの遊び」の動画には秋辺さんも出演していますので、ぜひ見てください。



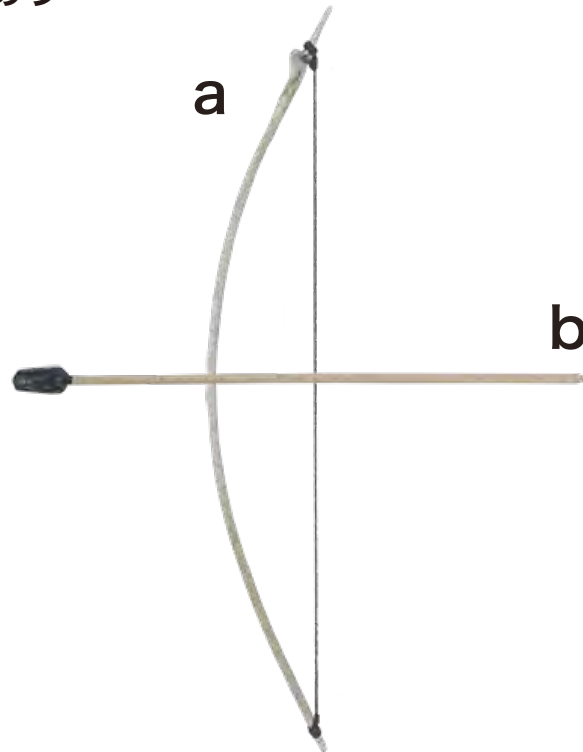
国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

a.ポンク〈小さい弓〉b.ポナイ〈小さい矢〉

COI12

アイヌ文化にであう

北海道/日本



参照資料：

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P45
『アコロコタン』P83～92

取扱注意：

子どもが使用する簡単な作りの弓矢です。弓はゆっくりと引いてください。
試すときには、まわりの人や物に十分注意してください。

a.ポンク b.ポナイ

弓矢は、シカなどの狩猟しゅりょうに使われた大事な道具です。子どもは小さな弓矢で遊びながら、その扱い方あつかを学びました。矢の先は危あぶなくないようにしてあります。

【齋藤先生からのひとこと】

釧路市阿寒町くしろしあかんちょうの秋辺日出男さんが製作しました。(公財)アイヌ民族文化財団が製作した「子どもたちの遊び」の動画には秋辺さんも出演していますので、ぜひ見てください。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

チタラペ<文様入りのござ>(ミニチュア)

COI13

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料 :

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P45
『アコロコタン』P83~92



チタラペ

ガマの葉を編んで作られるござは、ふかふかと柔らかく断熱性があり、無地のものは敷物として使用されます。赤や黒に染めた樹皮を編みこ込んで文様をつけたものは、儀式のときに酒器などの儀礼具を置いたり、祭壇に立てかけたりして用います。

【齋藤先生からのひとこと】

ガマの葉の切り口を見てください。段ボールのように隙間があり、空気をふくむ構造になっています。

a.手彫り茶托

b.レーザー彫刻コースター

COI14

アイヌ文化にであう

北海道/日本



a.手彫り茶托 b.レーザー彫刻コースター

a.茶托は、もともとアイヌ文化にあったものではありませんが、江戸時代からみやげものや献上品などとして作られていました。

b.最新のレーザー彫刻の機械で作ったもので、彫刻と同時に焼き色もつけられます。手間をかけず、早く作れるため、安価で販売することができ、アイヌ伝統文様の普及に期待されています。

【齋藤先生からのひとこと】

a.は平取町二風谷の洲崎春男さんが彫ったものです。手彫りとレーザー彫刻、どんなところが違うか比べてみてください。

b.レーザー彫刻コースターのデザインは、平取町二風谷の関根真紀さんが手がけました。



文様ツール①

COI15

アイヌ文化にであう

北海道/日本



文様ツール①

一筆描き^がでアイヌ文様を体験できます。

解説パネルより

「指でなぞってみよう!赤の出発点●から、緑の終点●まで指でなぞってみましょう
これは一回の一筆描きで作られたアットウシ(樹皮繊維製衣服)の背中の文様の例
です 一筆描きを複数回往復させた文様もあります」

【佐々木先生からのひとこと】

「このモデルはアットウシ(樹皮繊維製衣服)の背面の文様です。実物はテープ状に裂いた布を折り曲げて縫いつけ置布とします。そうすると折り曲げた部分が少し盛り上がります。一筆描きの部分をよりわかりやすくするために置布は切り抜いて平らにしました。目の不自由なかたにも触っていただきたいと考えてこのようにしました。」以上、製作された津田命子さんからのメッセージです。



文様ツール②

アイヌ文化にであう

C0116

北海道/日本



文様ツール②

ひもを使って、アイヌ文様の刺しゅうの進め方を体験できます。

【佐々木先生からのひとこと】

解説パネルより

「例を見ながら出発点●からスタートして紐の終り●を出発点にもどしまし
う。アイヌ文様の多くは一筆描きの刺しゅうです」

樹皮から糸ができるまで

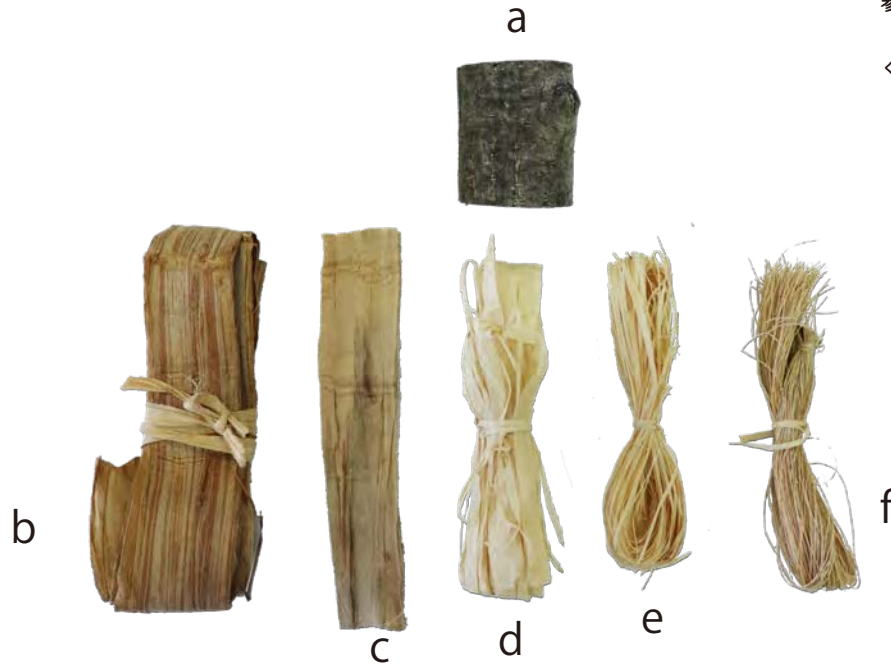
CO117

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P16



樹皮から糸ができるまで

アットウシじゅひせんい(樹皮繊維製布)は、オヒョウというニレ科の木の樹皮から作られます。織るのも大変ですが、樹皮から糸を作るまでは、もっと時間と手間がかかります。その工程をわかりやすくセットにしました。

- a. 原木
- b. 内皮(外側の皮をはいだもの)
- c. 内皮をに煮たもの
- d. (c.)を薄くはいだもの
- e. (d.)を細く割さいたもの
- f. (e.)に軽く撻よりをかけて糸にしたもの

【齋藤先生からのひとこと】

みな皆さんの着ている服は、何の糸でできていますか？その原料はどこで作られたものか考えてみましょう。



オオウバユリの保存食

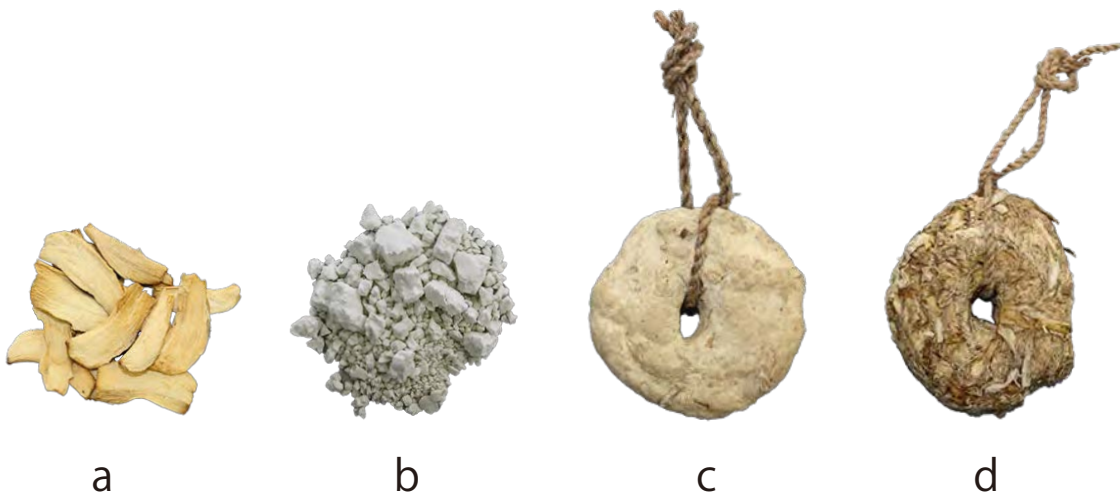
COI18

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P22～23
『アコロコタン』P144



オオウバユリの保存食

オオウバユリ(アイヌ語でトゥレプ)の鱗茎^{りんけい}、いわゆるユリ根からは良質なでんぷん^{なか}がとれます。団子やかゆに入れて食べるほか、一番粉(最初にとるでんぷん粉)はお腹^{なか}をこわしたときに薬がわりに飲んだりもしました。でんぷんをとった後の絞りかす^{しぼ}も、ドーナツ状に丸めて乾燥させて保存しました。

- a. 刻^{きざ}んで乾燥させたもの
- b. 一番粉
- c. 二番粉を丸めて乾燥させたもの
- d. 絞りかす^{かんそう}を丸めて乾燥させたもの

【齋藤先生からのひとこと】

長い冬をこすためには保存食が重要で、トゥレプに限らず、さまざまなもの^{ほぞん}を乾燥させておきました。かゆや汁物などに入れて、食べました。



アイヌ語カルタ

CO119

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料：

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P36～37

a



b

アイヌ語カルタ

a. 食べ物、薬、ものを作る素材など、よく利用する植物のアイヌ語の名前と説明が付いたカルタです。平取町ニ風谷の尾崎友香さんが作ったものです。

b. (公財)アイヌ民族文化財団が制作したアイヌ語教材テキスト《入門編》^{ほじよ}補助教材のカルタです。遊びながらアイヌ語が覚えられます。イラストは小笠原小夜さんが描いた^かものです。

【齋藤先生からのひとこと】

日本語の動物や植物の名前などで、アイヌ語がもとになっているもの^{さが}を探してみましよう。

点字カレンダー

アイヌ文化にであう

COI20

北海道/日本



点字カレンダー

ユニバーサルデザイン絵本センターが発行した2019年のカレンダーです。点字が
付いて、^{さわ}触って使えるようになっています。

【齋藤先生からのひとこと】

イラストは、(公財)アイヌ民族文化財団のカルタと同じ小笠原小夜さんによるものです。



アイヌ語すごろく

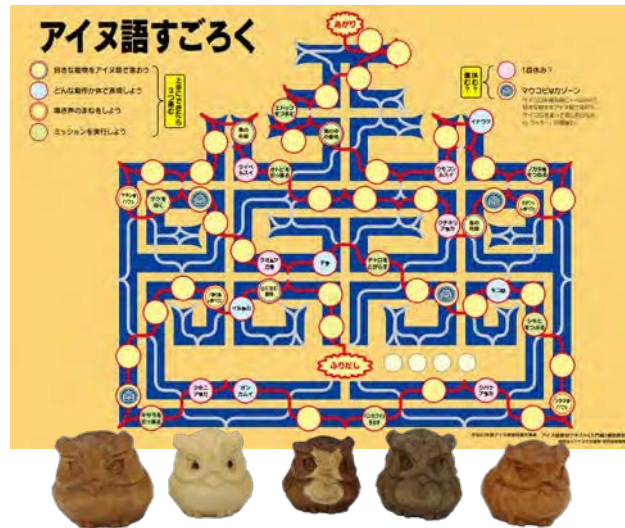
アイヌ文化にであう

COI21

北海道/日本

参照資料：

『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P36～37



アイヌ語すごろく

(公財)アイヌ民族文化財団が発行したアイヌ語教材の付録です。楽しみながらアイヌ語を学べます。

【齋藤先生からのひとこと】

フクロウの形をしたコマは、札幌市在住の ^{さっぽろ} 木彫家・^{もくちょう} 荒木繁さんに作っていただきました。木の種類によって色や木目がひとつひとつ ^{ちが} 違うので、自分のコマを覚えられますね。

参照資料 :
『アイヌ もっと知りたい!
くらしや歴史』P40~41



アイヌの伝統などを題材にした^{ようじ}幼児むけの絵本です。毎年、原作を^{ぼしゅう}募集し、^{ゆうしゅう}最優秀作品を^{ほさく}補作して発行しています。みんぱくに入れたもの以外の作品も同財団のホームページから読むことができます。

音楽CD

アイヌ文化にであう

C0123

北海道/日本

a



b



音楽CD

ムックリやトンコリの演奏、歌などを収録したCDです。

a. 『ムックリの響き：アイヌ民族の口琴と歌』 ©&©2001 日本口琴協会

北海道の阿寒、浦河、屈斜路、塘路の伝承者らによるオリジナルのムックリ演奏と、伝統的な歌31曲を収録。

b. 『IHUNKE』 ©&©2001 Chikar Studio

安東ウメ子(1937-2004) 帯広市フシココタン出身。ウポポ(歌)とムックリの名手で2002年に幕別町の無形文化財指定、2003年北海道文化財保護功労賞受賞。トンコリ奏者OKIがプロデュースし、イフンケ(子守唄)はじめ20曲を収録。



a.楽器 トンコリ

オプション ※別途送料がかかります

b.解説書 『西平ウメとトンコリ』

CO124

アイヌ文化にであう

北海道/日本

参照資料 :
『アイヌ もっと知りたい！
くらしや歴史』P35

a



b

a.楽器 トンコリ b.解説書 『西平ウメとトンコリ』

おもに樺太からふとで使われていた弦楽器げんがっきです。一時は演奏えんそうできる人が少なくなりましたが、いまは北海道でも弾くひ人が増えています。一般的には五弦いっばんてきですが、弦げんの数が異なることものもあります。トンコリの胴体どうたいの中には、石などが入れられており、これは楽器の心臓しんぞうといわれています。楽器は左肩ひだりかたに立てかけて、弦はおさえずに、両手ではじくようにして弾きます。

a.アイヌ民族博物館 製作

b.『西平ウメとトンコリ』 ©2005アイヌ民族博物館

(旧)アイヌ民族博物館で開催された同名の企画展かいさいの企画展きかくてんの解説書。樺太(サハリン)出身の西平ウメさんによるトンコリ演奏を録音したCDおよびトンコリの製作工程や演奏法しゅうろくを収録したDVDが付いています。